

委員会視察報告書

委員会名	議会広報広聴常任委員会
視察地	千葉県成田市
調査項目	高校生との意見交換会について
調査目的	「高校生との意見交換会」について調査し、今後の本市における取組の参考とするため
日時	令和8（2026）年8月6日（木）午前10時～午前11時30分
場所	成田市役所（千葉県成田市花咲町760番地）
調査概要	【成田市の概要】 面積：213.84km² 人口：133,306人（令和8年3月末日現在） 世帯数：69,188世帯（令和8年3月末日現在） 【成田市議会の広報広聴活動】 ◆議員定数：30名（欠員1名） ◆会派：政友クラブ（14名）・豪政会（4名）・公明党（3名） リベラル成田（3名） 会派外：日本共産党（2名）・虹と緑（1名）・暁真世（1名） 正観会（1名） ◆委員会・その他会議 常任委員会 ・総務（8名）・教育民生（7名）・経済環境（7名）・建設水道（7名） 特別委員会 ・空港対策（12名）・決算（12名）・予算（12名） その他 ・議会運営委員会（10名） ・広報広聴委員会（10名） ・議会DX推進検討会（8名） ◆議会事務局 事務局長、事務局次長 総務係（3名）庶務、秘書、政務活動費

	議事調査係（4名）議会運営、広報広聴、各種調査 ◆成田市議会基本条例（平成27年4月1日施行） 【広報広聴委員会】 ・議会基本条例第8条第5項：議会は、前各項に規定する活動を行うため、議員で構成する広報広聴委員会を設置する。 ◆会議体 常任委員会・特別委員会と異なる合議体（傍聴なし、会議録の公開なし） ◆所管事項 広報活動：議会だより、議場見学会、ホームページ 広聴活動：議会報告会、高校生との意見交換会 ◆委員の任期 2年（常任委員会と同様） ◆出席者 広報広聴委員10名、議会事務局5名（会派の人数に応じて配分を決定、会派選出） ◆会議の開催回数 月1回程度 【議会だより】 議会基本条例第8条第2項：議会は、議会広報を発行し、議会活動に係る情報を分かりやすく市民に提供するように努めるものとする。 ◆創刊 平成9年5月15日 ◆発行月 2月、5月、8月、11月の1日に発行 ◆発行部数 36,800部 ◆配布方法 新聞折込、郵送 公共施設・商業施設等に設置し配布 ◆作成スケジュール 委員会を3回開催（ページ構成、ハイライト、最終確認） ◆契約方法 委託（デザイン、印刷、新聞折込） ◆基本レイアウト 1ページ：表紙、目次
--	---

	2 ページ：定例会ハイライト（日程、議案等） 3～6 ページ：委員会審査レポート 7 ページ：議案と審査結果一覧 8～14 ページ：一般質問 15 ページ：教えてうなりくん 16 ページ：お知らせ、編集後記、次回定例会の日程等 ◆編集にあたり ★表紙 ・読者が手に取りたくなるような写真（人物、表情、動きなど） ・市民の登場で、議会に親しみを持つきっかけに ★ハイライト（開いて最初に見るページ） ・暮らしに身近な議案等をピックアップして次ページ以降に誘導 ★教えてうなりくん ・議会の仕組みを知り、議会を身近に感じてもらう ★見やすく、分かりやすく ・なるべく分かりやすい表現 ・全ページカラーでも、色を多用しない 【議会だよりの特色①】 - デジタル技術の活用 - ◆電子ブック スマートフォンやタブレットなど、デジタル機器で読み込むことができる（ブラウザ版、マチイロ、ちいき本棚で実施） ① 操作性が良く、様々な世代に受け入れやすい ② 他のコンテンツやメディアに広がる ③ いつでも、どこでも、スマートフォンやタブレットで読める ◆AR（拡張現実） スマートフォンのアプリを起動して、議会だよりの表紙をかざすとスマートフォンの中で動画が再生される。 成人式のAR動画は数多く再生され、成田市の未来を担う若者が議会だよりを読み、議会への関心を持ってもらう一つのきっかけになっている。 【議会だよりの特色②】 - 視覚に障がいがある方等への対応 - ◆声の広報 文字を読むことが難しい人や視覚に障がいがある人のために、音訳グループの皆さんが音訳した議会だより音声ファイルをホームページで
--	---

	配信しているほか、希望者にカセットテープを郵送している。 本事業は「意思疎通支援事業」の一つとして、障がい者福祉課が実施し、録音 機器や音声編集ソフト等の機材は市が購入し、読み上げや音声編集作業は音訳グループの皆さんによるボランティアである。 【議会報告会】 議会基本条例第7条（平成27年度～） 議会は、議会で行われた議案等の審議の経過及び結果について市民に報告するとともに、市政全般に関する諸課題について情報及び意見の交換を行うために、議会報告会を開催するものとする。 ◆目的 議会基本条例第7条のとおり ◆開催日 11月上旬 ◆会場 対面方式（委員会室、公民館） オンライン方式 Z o o m（昨年度は中止） ◆参加者 市内に在住、在勤、在学している者 全議員（昨年度は3グループに分かれて参加） ◆内容 委員会報告 テーマに基づいた意見交換、フリートーク 【議会報告会の事前準備】 ①開催内容の企画、調整 ◆前回のアンケート結果、反省点の確認 ◆開催日時 市のイベントスケジュールを見ながら調整 ◆開催形式、開催場所 対面方式又はオンライン方式 市役所又は公民館等で開催 ◆開催内容の検討 委員会報告、意見交換（テーマなど） ◆その他 託児、手話通訳等の調整 ②周知方法の検討、周知活動の実施 ◆チラシの作成、配布、ポスター掲示
--	---

	◆市議会だより、広報なりた、行政回覧 ③配布資料の作成 ◆委員会報告資料は議会だよりを引用 ◆広報広聴委員会で資料のチェック ④グループ分け、役割分担等の調整 ◆グループ数、班編成を調整 ◆司会、意見交換進行役を調整 【議会報告会における市民意見の取扱い】 市民⇄広報広聴委員会（意見等をカテゴリーごとに分類、整理）→全議員（全員協議会において結果報告）→議長（全員協議会において取扱いを依頼）→常任委員会、特別委員会（必要に応じて取扱いを協議、調査、提言）、議長（結果報告）→市長・執行機関 【高校生との意見交換会】 議会基本条例第8条第4項（令和28年度～） 議会は、市民の意向を把握し、議論を深めるため、必要に応じ市民アンケート、意見公募手続きを実施するものとする。 ◆目的 18歳に選挙権が引き下げられ、政治や選挙が身近なものとなった高校生に市議会に興味をもってもらい、併せて議会側が高校生の意見を聞く機会を作り出す。 ◆開催日 3月下旬（修了式の翌日、翌々日） ◆会場 議場、委員会室 ◆参加者 高校 ①市内在学の高校生 市内5校（県立4校、私立1校）から各5名～6名 参加生徒は学校で選抜しているが、生徒会所属生徒が多い。 選抜生徒以外も参加可能。 ②市内在住の高校生 議会 ・全議員 ◆内容 議会棟の見学、グループでの意見交換（5グループ）ほか
--	--

	【高校生との意見交換会の事前準備】 ①開催内容の企画、調整 ◆前回アンケートの結果、反省点の確認 ◆開催日時 各学校に候補日を確認 ◆開催場所 市役所開催 ◆開催内容 セレモニー（自己紹介、〇×クイズ） 議会棟見学 意見交換 ◆事前アンケートの作成 参加者事前アンケート 参加できない生徒へのアンケート ◆ポスターの作成 市外の高校に通学する生徒の募集 アンケートの応募 ②学校への依頼 ◆広報広聴委員が訪問 生徒の派遣を依頼 アンケート、ポスター掲示を依頼 開催内容の意見交換 ③最終調整 ◆事前アンケート結果の確認 関心のある内容、要望等を確認 ◆グループ編成 グループ数、高校生や議員の人数 ◆役割分担 司会、〇×クイズ、議会棟見学、グループディスカッション進行役等 ◆事後アンケートの作成 事後アンケートは議会だよりと一緒に各高校へ送付 【高校生との意見交換会における参加者の感想】 生徒・教員 ◆生徒 ・意見交換会に参加するまでは、市議会や市議会議員が何をしているか分からなかったが、議員と意見交換をすることで詳しく知ることができた。
--	--

	・議員と直接話をする機会がないので、新しい考え方や物の見方を知ることができた。 ・自分の意見を聞いてもらいうれしかった。来年も参加したい。 ◆引率の教員 ・議場や委員会室など、普段入ることができない部屋に入ることができた。 ・議員だけでなく、同世代の他校の生徒とも交流することができた。 ◆議員 ・休憩時間中も意見交換が行われるほど、積極的な意見交換を行うことができて良かった。 ・高校生と意見交換することは少ないので貴重な経験になった。 【議場見学会】 議会基本条例第8条第3項（令和6年度～） 議会は、情報技術の発達を踏まえた多様な広報手段を活用することにより、多くの市民が議会及び市政に関心を持つよう広報活動に努めるものとする。 ◆目的 議会を身近に感じていただき、市民に開かれた議会を推進するために議場や委員会室などを議員が市議会の役割や仕組みについて説明をしながら案内する。 ◆開催日 月曜日から金曜日まで（会期中、各種会議開催日は除く） ◆対象者 市内在住、在勤、在学者を含む2名以上 ◆対応者 広報広聴委員2名 ◆内容 ①市議会の仕組みの説明 ②市議会〇×クイズ ④ 議員への質問タイム ⑤ 議会棟見学 【議場見学会における参加者の感想】 児童・教員 ◆児童 ・2人の議員さんが明るくて優しい人たちだったので安心して質問できた。
--	--

	・議場の大きさを知ることができて良かった。 ・私たちのことを決めている場所（議場）を知ることができて安心した。 ◆引率教員 ・議員から直接お話を聞いたことで、子どもたちが「市議会ではどんな人たちがどんな活動をしているのか」という点に興味を持つようになり、学習の狙いをしっかりと達成できたと感じた。 ・クイズ、部屋の見学、質問タイムと時間配分が適切で小学6年生の実態に合っていた。 ◆議員 ・議場見学会の対応はとても楽しかった。子どもたちから子どもらしい質問や子どもならではの視点による質問に答えることが難しい質問などたくさんの質問を受けた。 ・娘が国会議事堂を見学した際は説明がなかったが、市議会見学は説明があつて良かったと感じた。 ・議員報酬や条例の数などたくさんの質問を受けた。子どもと接する機会を増やすことで議会の活性化につながると感じた。
視 察 の 様 子	 
質 疑 応 答	質問1 高校生と意見交換会を始めた経緯は。 回答1 選挙権が18歳に引き下げられ、高校生に市議会に関心を持ってもらうことと、議会側も若者の意見を聞く機会をつくることを目的に開催することになった。 質問2 毎年、高校生と意見交換を行っている経緯は。 回答2 開始した平成28年度以降好評だったことから毎年度のイベントとしており、高校側も毎年の恒例行事として認識している。 質問3 高校の選定や近年公募枠を設けた経緯、応募状況は。 回答3 当初は市内の学校に在学する生徒のみ対象としていたが市外の高校に通学する生徒から参加したいとの要望があり、令和元年度から参加できるようにした。応募状況は令和4年度1名、令和7年度1名。 質問4 参加者の募集について工夫していることは。 回答4 広報広聴委員が直接高校に出向き依頼を行っている、また、議員自らがポスターを作成し、市内の公共施設、高校に掲示している。

質問5 活発な意見交換をするために工夫されていることは。

回答5 リラックスできる環境づくりを重視し、会場でのBGMやお菓子やジュースを用意し生徒の緊張を和らげるように取り組む。

質問6 高校側の位置づけとは（授業・教育活動の一環となるか）。

回答6 参加者の大半が生徒会所属の生徒が多く、生徒会活動の一環としての参加と考える。

質問7 学校との連携において学校行事との接続については。

回答7 高校側と協議し、授業や部活にも影響のない春休み期間中の修了式の翌日か翌々日で開催している。

質問8 意見交換会で出された意見をどのように反映、活用は。

回答8 高校生から出された意見は取りまとめて議員で共有し、市政に関するものは執行部へ情報提供している。

質問9 高校生からの意見が市政に反映された事例は。

回答9 高校生からの意見で実現した政策等はまだないが、意見を基に一般質問を行った議員がいる。

質問10 市民にフィードバックした際の反応は。

回答10 議会だよりやホームページに高校生から出された意見、要望を掲載しているが特に市民からの反応はない。

質問11 議会広報で高校生から出された意見について議会の対応は。

回答11 高校生の意見に対する議会の対応は執行部に情報提供を行っているだけで、特段発信もしていないことから今後の課題と認識している。

質問12 意見交換会後の成果と課題は。

回答12 成果としては目立ったものはないが高校生の政治に関心が少ないと感じ、ただ、継続的に実施したいとの議員からの感想があった。また、高校生からは議員のイメージが変わった、参加して成田市について深く考えるきっかけになったとの感想があった。一方、課題としては毎年同じ要望があり、市でも対応できていない点やグループの人数を少なくした方が話しやすいのではと議員から意見があり検討中である。

質問13 意見交換会を継続していくためのポイントは。

回答13 なるべく高校側の負担にならないように考えている。高校生には議場見学や議員との話をしてほしい面があるので、高校側の要望を聞きながら対応したいと考えている。

質問14 高校生以外の意見交換会や広聴機会はあるか。

回答14 毎年、11月に開催している議会報告会時に一般市民と意見交換を行っている。

質問15 市内5校全てが参加しての意見交換会で配慮や工夫は。

	回答 1 5 事前に学校に伺い意向を聞いた上で調整を進めている。毎年議員が学校に出向いて招待状やポスターを持参してコミュニケーションを図っている。 質問 1 6 市内に大学があるが大学生との意見公開会の開催の検討は。 回答 1 6 検討課題には上がっている。しかし運営面で課題があり、まずは高校との出前意見交換会の企画と並んで検討している。 質問 1 7 市民対象の意見交換会でテーマはどのように決めているか。 回答 1 7 過去には防災や子育てなどをテーマにしてきたがテーマを絞ると参加者が固定化するので、現在は、前半はテーマ別の対話と後半はフリートークの2部構成で実施している。 質問 1 8 市内中学生に対する主権者教育と意見交換の検討は。 回答 1 8 機会があれば実施したい。現状は高校生や小学生向けの見学会でいっぱいである。また、執行部主催で中学生議会を開催しており、各中学校から代表の生徒が議場で直接市長や執行部に質問をする取組を行っている。
委員会所感	【田邊委員長】 成田市議会の高校生との意見交換会について視察先にてお話を伺った。広聴活動を体系的に位置付け、議会基本条例に基づき継続的に実施している点が印象的であった。特に、広報広聴委員会が学校へ直接出向き、ポスター掲示や生徒派遣の依頼を丁寧に行うなど、学校との信頼関係を地道に築いている姿勢は参考となる。また、修了式直後の春休みに開催することで授業・部活動への影響を避けるなど、学校側の負担軽減を重視した運営が特徴的である。会場ではBGMや飲み物を用意し、リラックスした雰囲気で議員と高校生が対話できる環境づくりにも工夫が見られた。出された意見は議員間で共有し、必要に応じて執行部へ情報提供しているが、政策反映には至っておらず、フィードバックの発信も課題として認識されている。とはいえ、高校生から「議員のイメージが変わった」「市政を考えるきっかけになった」との声が寄せられており、主権者教育として一定の成果が確認できた。柏崎市においても、学校との連携方法や心理的ハードルを下げる工夫など、成田市の取組は広聴活動の深化に向けて大いに参考となると感じた。 【山崎副委員長】 成田市議会の若い世代との意見交換について知る機会となった。参加者は市内高校に在籍する生徒会の生徒が中心となっていたが、市内在住で市外高校に通う生徒を対象を広げるなど、市民の属性に対する工夫をすることで、より成田市住民の声に耳を傾けたい姿勢を感じることができた。 また、いただいた意見の政策への生かし方など当市の行う若い世代との

意見交換においても共通の課題があることが分かった。当市での広報広聴活動においても、まずは議会の動きを知ってもらい興味を持ってもらうこと、そしてスムーズな対話のための環境づくりが重要であると感じた。

【池野委員】

成田市では、議会だよりの詳細や特色について、各報告会の目的や事前準備、事後の感想などについて分かりやすくまとめられた資料を基に説明をいただき、非常に参考になった。特に、市内にある私立も含めた5つの高校の生徒、全てと意見交換会を継続されている実績はすばらしい。各高校から5～6名ずつ参加してもらい、事前にアンケートを行った内容を参考に、グループ編成をしている。内容としては、議場での自己紹介や〇×クイズに始まり、議会棟の見学をし、議会を知ってもらい和んだ後に、グループごとの意見交換としている。また、会場では、BGMを流しお菓子とお茶を配るなどの話しやすい場づくりの配慮をしている。参加者はリピーターが多く、休憩時間も生徒同士で話が盛り上がる姿もあると伺った。引率の先生からも、同世代の他校の生徒とも交流するいい機会となっているといった感想もあり、議会側だけでなく、高校側にも良い経験となっている所がすばらしく、非常に参考となった。高校生との意見交換は、主権者教育の観点や未来のためにも大切なことであると考えてるので、柏崎市でも実現できるように励みたいと思う視察であった。

【近藤委員】

成田市議会は「開かれた議会」を明確に掲げ、広報広聴活動を体系的に進めている。高校生との意見交換会は、議場や議長応接室の見学を含む2時間の構成で、春休み期間の余暇活動でありながら主権者教育として高い意義を持つ。特に、最初のコンタクトで学校側の理解を得ることが重要であり、丁寧な関係構築が継続の要因になっている。

また、議員が生徒の質問に答える双方向のやり取りが特徴で、柏崎市議会の「議員は個人的意見を言わない」という運用とは対照的である。発言に責任を持つことを前提に、議員個々の考えをあえて伝えることで、議会への理解が深まり、若者の主体的な参加につながるのではないかと感じた。なお、高校生の「集まる場所はあるが時間を使う場所がない」という指摘は、柏崎市の大学生からも出た意見であり、都市規模に関わらず共通する課題認識に驚かされた。高校生との意見交換会が、広聴活動にとどまらず、将来のまちづくりや人材育成にもつながる機会となっている点には、深く感銘を受けた。

そのほか、議会報告会の報告部分に議会だよりを活用するなど、参考になる点が多々あり、大変有意義な視察であった。柏崎市議会における

広報広聴活動に少しずつでも反映させていきたい。

【山本委員】

成田市議会の「高校生との意見交換会」について、成田市議会の広報広聴委員長は、成田市の現状と地域課題について、成田空港の拡張（滑走路の延伸・新設やワンターミナル化）に伴い、今後3年間で空港従業員を3万人増員する計画があり、外国人人材のさらなる増加が見込まれており、人口の約20%が外国人となる可能性を見据えた「多文化共生」や、若年層の人口流出防止が大きな課題となっているとお聞きした。その中で市内の5つの高校全ての生徒の代表と公募枠で参加した生徒などが政治や議会への関心を高めるため、平成28年度から春休みに議場などで開催していた。議員が直接高校を訪問して周知・依頼を行い、意見交換会当日はクイズやBGM、お菓子やジュースを用意してリラックスできる雰囲気づくりを徹底しており、市外の高校に通う市内在住者も対象とし、高校生から出たリアルな意見（遊び場や公共交通の不足など）を議員が一般質問に活用した事例などを伺った。柏崎市でも若い世代の流出や意見交換会の参加者固定化が課題となっており、昨年の大学生との意見交換会に続き、成田市の高校生との意見交換会の取組や議場見学会の事例を参考に、今後の柏崎市議会の広報広聴活動に生かしていきたいと感じた。

【西川委員】

平成28年から主権者教育と広聴機能の強化を目的に実施している高校生との意見交換会について説明を受けた。市内5校の代表が参加し、これまで内容や運営方法を見直しながら継続している。企画、学校への依頼、事前準備、当日の運営、終了後の意見の取りまとめまで、細部にわたり検討されていることが特徴であった。また、意見交換で出された内容を当局へ伝達するとともに、広報を通じて市民へ報告している点も参考となった。若者の意見を聴く場を設けるだけでなく、意見を受け止め、議会や行政につなぎ、その結果を市民へ発信する一連の仕組みが重要であると感じた。参加した高校生、担当議員双方の満足度も高く、継続することでより充実した取組となっていることがうかがえた。

本市においても、若者が参加しやすく、率直な意見や新たな発想を引き出せる意見交換会の在り方を検討するとともに、幅広い市民の声を継続的に市政へ反映できる広聴機能の充実につなげていきたい。

【持田委員】

高校生との意見交換会を始めた経緯、基本的に毎年度のイベントになっている。「継続が力」になっていることは先進的な事例と感じる。

高校生が話しやすく、溶け込むような環境整備を意識的に取り組んでいることは大きな学びである。加えて、肩肘張らない、服装についても

(成田市は今のところ議員風だが) 視座を参加者に合わせる工夫の重要性を学ぶことができた。

意見交換会を「議場や委員会室」で活用していることは、議会を身近に感じられる環境づくりとして大事な観点である。

若者からの意見を聞く場から、「自分たちの課題を議会と一緒に解決するワークショップ形式」へ移行し、議員がファシリテーターとして関われることで、若者の当事者意識を高められること。議会と暮らしの一致を体験するような手立ても今後、考慮される必要があると感じた。

【重野委員】

人口13万人都市の成田市。外国人が9%も居住していることに驚いた。市外の人が見ると空港とお寺があるいいイメージの地方交付税の不交付団体だが、この外国人のことや公共交通などに大きな課題があることを知った。議会としての広聴では若者をターゲットにした高校生との意見交換会を実施して10年になる。開始当時の様子を知ること、柏崎市にも生かせるものがあると思う。何にしても0を1にするエネルギーは相当なものであるから、覚悟と強い信念を持たないと踏み出すことは難しいかもしれない。中学生への主権者教育を含めた広聴の場を成田市議会も検討しているとのことだったが、既に執行部側が市長や教育長をはじめとする議会出席者をそろえた模擬議会的なことを行っているということで議会色をどう出すのかを考えているように感じた。執行部側が議会以上に未来の成田を見据えた若者の啓発に取り組んでいることに本気を感じた。

【三宮委員】

今回の視察では、成田市議会が実施している高校生との意見交換会について学び、若い世代の声を議会活動やまちづくりに反映させることの重要性を改めて認識した。高校生という、これまで議会との接点が比較的少なかった世代と直接対話することで、日常生活の中で感じている地域の課題や、将来のまちに対する率直な思いを把握できる点は、大変意義のある取組である。また、意見を聴くだけで終わらず、議員との対話を通じて地域や行政に関心を持つきっかけをつくることは、将来の地域の担い手を育てる観点からも重要である。

柏崎市においても、人口減少や若者の市外流出が課題となる中、高校生を含む若い世代が「柏崎の未来を自分ごと」として考え、意見を発信できる場を増やしていく必要があると考える。

【相澤委員】

議会見学会を広報広聴委員会が主体となって引き受け、案内まで行っていることが印象的であった。議会よりもオールカラー仕様やQRコードの活用など、本市議会の「ギカイのとびら」と共通する取組が見ら

	れた一方、表紙の記事をスマートフォンで動画紹介するなど、議会を身近に感じてもらう工夫が随所に見られた。 高校生との意見交換会は、選挙権年齢の引下げを契機に、若者の意見を聴く機会として始めたとのことである。本市議会も参加者層の固定化が課題であり、若者との接点を模索する中において今回御教示いただいた内容は、これからの本市議会における広報広聴活動の在り方を考える上で、大いに参考となるものであった。 広報と広聴を一体的に捉え、「議会を知ってもらう」「関心を持ってもらう」「対話する」という一連の取組は、市民と議会との関係をより深め、これからの議会改革を考える上で重要な視点であると感じた。 【春川委員】 平成28年から高校生との意見交換会を実施しており、出席者は生徒会の役員が多く、2年続けて参加している生徒もいると伺う。 議員が直接高校に出向き、交渉やポスター作成を行っている。意見交換会は9人の委員で対応しており、常任委員会ではないがほかの議員も協力的である。意見交換会場では、リラックスした雰囲気づくりがとても大切でお菓子を配って会場内を和ませており、その配慮がとても参考になった。 中学生対象の意見交換会は、執行部の市長、教育長、各部長が中心に対応し開催している。ほかにも議場見学会を実施し、議会を身近に感じていただき開かれた議会を推進するために開催しているところがとても参考になった。
--	---